

# 尾瀬ネットワーク通信

2004年3月27日 VOL.7, No.1(18)

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク



GWのアヤメ平(撮影・永島 勲)

## 原のシカは南から

### ~~ 尾瀬ヶ原シカ調査報告 ~~

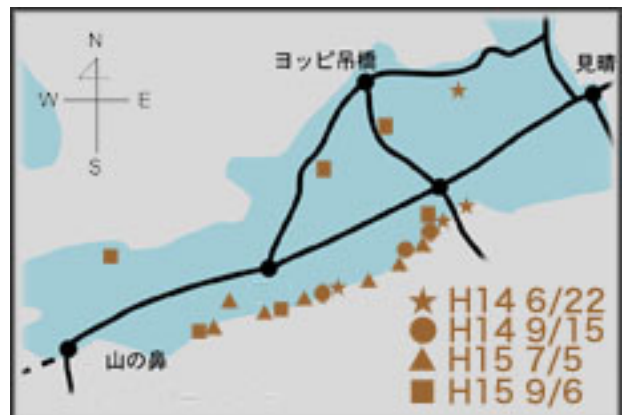
年度末にあたり、一昨年と昨年の調査結果を調査項目の頭数・確認地点、天候・月齢、発見時の行動・群の構成について主観的な考察を含めて、まとめてみました。

調査日と観測条件については次ページの表にまとめたのでご参照下さい。なお、調査には照射距離が約250 ㍎のビームライト、GPS、双眼鏡を利用しました。

### 確認頭数と確認地点

シカは右図に示した地点で確認しました。シカの確認は南側の林縁、しかも中田代に集中しています。シカは富士見峠・アヤメ

平・中原山が連なる尾根の山腹から進入してくるのでしょうか。確認地点と時刻の関係からの推測になりますが、この山腹からは長沢・セン沢・伝之丞沢が原に流入していますが、これらの沢の低地沿いを降りてくると思われます。



(図) 尾瀬ヶ原シカ確認地点

調査時刻はシカの行動が活発になる夜半には早く、まだ沢周辺の湿原に群れているのでしょう。その後、シカ達は東西に広がって行くようです。

北側はヨッピー川・沼尻川の抛水林の縁でのわずかな確認で具体的な推測はできませんが、移動はやはり何かと安全な抛水林の中なのだと思います。

### 天候・月齢

雨が降ってもシカは活動しています。しかし、雨水のためライトの照射が届かない、反応するシカの目を調査者が捕らえにくいなど効率の悪い調査になるので、天候はいつも一番の関心事です。

月齢とシカの活動の関連をたった2年間の4回の調査で考えるのは大変難しいことに思われます。満月に近い月齢でも雨または厚い雲で原は真の闇となってしまいます。また月が大きいと、調査者がシカを見つけやすくなるのでしょう。

### 発見時の行動・群の構成について

ニホンジカは子ジカを連れたメスが血縁関係のあるメスと群れを作って行動していますが、調査でもその構成を何回か確認しています。秋の調査では「クワオーッ」という猛々しいオスジカの叫びを再三耳にしました。交尾期特有のオスのテリトリー宣言だとか。

行動についてはほとんどが採食中でじっ

とライトを見つめたあと「ピュッ」と警戒音を発して林の中に逃げ込むことが大半でした。逃げるときにはお尻の毛を逆立てるため、お尻が白く目立ちます。これを尾鏡と言いますが、確認は一度もありません。

### まとめに代えて

地形条件として原の北側での確認数が少ないことについて考えてみたいと思います。猫又川、ヨッピー川の抛水林および木道から林縁まで距離があることなどが発見の障害になっているのでしょう。

また、気象条件として、たとえば新潟側の降雪量、林縁の気温、ヨッピー川や只見川の流れなどがまだ残雪期からのシカの進入を阻んでいることも予想できなくはありません。

調査をされていて気になるのは、なんと言っても南側林縁の湿原の状態です。あのあたり一体が泥田になってはいないかと胸を痛めつつ眺めています。

私たちといっしょにシカ調査を行っていた尾瀬高校が活発に調査活動を継続して行っているそうです。尾瀬高校は尾瀬ヶ原にも近く、多くの調査を継続して行うとの連絡を受けています。今後尾瀬ヶ原での多くの調査データが集まり、尾瀬地区全体のシカの動きが、早く解明されて食害が緩和されるといいですね。

(シカ調査担当理事 坂本敏子)

調査日	月齢	天候	確認頭数	山の鼻からの行程	調査者
H14年6月22日	11.1	雨	5頭	見晴十字路まで 5.7km	尾瀬ネット 6名 尾瀬高校 13名
H14年9月15日	8.0	曇り	10頭	竜宮まで 4.03km	尾瀬ネット 6名 尾瀬高校 4名
H15年7月5日	5.3	うす曇り	26頭	竜宮まで 4.03km	尾瀬ネット 4名 尾瀬高校 7名
H15年9月6日	9.4	小雨	36頭	竜宮まで 4.03km	尾瀬ネット 5名 尾瀬高校 10名

(表) シカ調査観測条件

## 尾瀬沼畔

### ヘリポート建設計画②

昨年3月発行の尾瀬ネット通信で長蔵小屋旧別館跡地にヘリポート建設計画が持ち上がっていることをお伝えしました。

概略は環境省自然環境局北関東環境保護事業所(以下、日光事務所)が各関係者を招いて長蔵小屋旧別館跡地にヘリポート建設計画を発表。その後、NWも加盟している尾瀬を守る会から2度にわたる要望書を提出しているというもの。

今号で、その後の動きについて報告します。

#### 2004年1月16日

日光事務所の小沢晴司次長ら職員3名が尾瀬を守る会の中根代表を訪問。2004年2月14日に尾瀬を守る会が提出した再要望書に対する解答として『管理ヤード使用規定(案)』ならびに『空輪作業管理要領(案)』を寄せた。

#### 2004年3月5日

守る会が日光事務所に2月16日に寄せられた尾瀬沼集団施設地区の管理ヤード使用規定(案)に対して一部変更の要望書を提出した。

要望項目は下記9項目。

- ①運航曜日については既に申し入れたとおり火曜、水曜、および木曜日とする。
- ②空輪可能な物資名、不可能な物資名について明示する。生活物資は認めても、みやげ品等の空輪は認めない。
- ③空輪作業日には、入山口およびヤード入り口に入山者に対する警告を掲示する。
- ④大気汚染、動植物への影響に配慮するため、過去3年間の運行回数を調査し、今後の運行回数もこれを上回ることを無いようにする。
- ⑤建設中止となった戸倉ダム周辺に生息するクマタカの繁殖を妨げないため、同地域の上空の飛行は季節により制限する。
- ⑥見晴、山の鼻地区にも管理ヤードを建設する。

⑦違反回数により何らかの罰則を設ける。

これらの要望書に対して3月8日に日光事務所より可能な限り修正案に沿う方向で詰めるとの回答がありました。

(高橋 喬)

## 理事会だより

2004年2月28日(土)に第2回理事会が東京にて開催されました。出席者は高橋(喬)、椎名、佐藤(信)、永島、大橋、坂本、山本、若松の8名、欠席者は磯部。

主な議題は2003年度の活動報告と2004年度の活動計画立案であった。2004年度の調査、現地活動は下記を予定しています。なお、活動については総会において最終決定されるので、活動日は若干変更の可能性あることをご了承下さい。

### 福島県側現地活動

本年度も昨年同様、全6回を下記の日程にて開催予定。第5回にはNPO認可記念特別企画研修会を実施します。会津地方最大の川「只見川」を尾瀬へとたどるコースを予定しています。

- 第1回 5月28日～30日
- 第2回 6月11日～13日
- 第3回 7月16日～18日
- 第4回 7月23日～25日
- 第5回 9月18日～20日
- 第6回 10月9日～11日

### 群馬側現地活動

本年度は2回を下記の日程にて開催予定です。第2回目の9月24日には尾瀬高校を訪問する予定です。

- 第1回 7月9日～11日
- 第2回 9月24日～26日

### 至仏山東面登山道調査

2004年度は7月9日～11日の2泊3日の日程で行います。本年度は10日に至仏山東面道調査、11日に笠が岳の調査を予定しています。

## 指導員養成講座

2004年度は講座実施内容を見直し、7月24日(土)に東京で室内研修を実施、その後現地研修を8月20日(金)～22日(日)に尾瀬ヶ原で実施することを予定しています。

(若松 真)

## 寄稿

### 全修協主催旅行に参加して

旅も2日目。ロッジ長蔵からマイクロバスで鳩待峠に着き、そこから細い自然道をくねくねと一時間余をかけて、およそ3kmの木道を尾瀬ヶ原に向かう。

昨夜の夕食後のミーティングで、スライド説明にネットワークの3人のリーダー(注・椎名宏子、田中志朗、棚橋収)がかわるがわる説明してくださったが、田中氏は顔に似合わず優しい話し方で面白おかしくユニーク。

かつて紀州の熊野古道の語部をした私もこの人の持つ雰囲気但至少でも身に付けていたら、来訪者をもっと魅きつけられたのにと、おかしくもない固い自分の語りを反省した次第。

さて、急坂5～600m、私の歩幅にて1200歩の登りが大変だろうと早くも明日の帰りが心配になる。急坂を下って約30分、ようやく曲がって行くと平らな木道。右や左の雑木林やシラカバ、ブナなどをながめならリーダーがこまめに説明。今年の冬の根雪が両脇に山積みになっている1本の木から何やら小さな1かけの芽を手を延ばして「この青い小さな芽はネバネバの粘液がついていて、寒い間、雪や風から新芽を守る役割」と実物を順番に回して見せてくれた。また、高いシラカバの枝を指さして「あの高いところにある固まり、何かわかりますか？あれは熊座と言って、クマが秋に身を守るためにあの上に登り、ドングリなどの木の実や葉を食べたり、昼寝をするのです」と。

行く手に山小屋風の木舎がいくつか見えて”山ノ鼻”着。広い草原、コゲチャの中に集団で姿を見せてくるミズバショウがひ

としおの美しさで、憩いを与えてくれる。2本の木道を行き交う人の群れがだんだん増えて、互いに「こんにちわ」「がんばりましょう」とか言葉をかけ合うのも尾瀬の風物詩の1つだろう。

原の中をただ一筋の道をときどきリーダーの説明を聞きながら、既に背の方に回った至仏山、そして前方に雪を頂いた景鶴山や燧ヶ岳を見ながら牛首分岐を抜け、ヨッピー橋から向かって右に見える東電小屋に至る。桜が満開の狭い庭で昼食。

三条の滝別動隊は2人の男性リーダーとともに早立ち。拍手で見送って、残り組は椎名さんとゆっくり30分ほどかけて第二長蔵小屋、今夜の宿舎に到着。

8時に床に入って11時過ぎに眠ったのだろうか。4時前後、同部屋の方がカーテンの隙間から「霧が出ている…」との独り言に目覚めて朝を迎えた。どうやら、幸先よく3日目も上天気。尾瀬来訪者は一時は必ず雨に遭うというのに、何とうれしい旅であろう。

(大阪班 太田久真子)

## 2004年度定期総会開催のお知らせ

すでに会員の方にはお知らせしており、2004年度の総会を下記の日程で開催いたします。会員の方は主席し、活発にご発言いただくようお願い申し上げます。

日時：4月10日(土) 13時より

場所：大宮ソニックシティ904会議室

(事務局長 椎名宏子)

## 新入会員

倉澤千賀子(千葉県)

尾瀬自然保護ネットワークとは、既に解散した尾瀬の自然を守る会の自然保護指導員の有志が1997年3月に設立した「尾瀬の自然保護活動を実践」している民間のボランティア団体です。2003年9月4日にNPOとなり、改称されました。

NPO尾瀬自然保護ネットワーク

〒100-0014

東京都千代田区永田町2-17-5-203(株)SEC内

電話 03-3581-0321 / FAX 03-3581-2178

理事長 高橋 喬

事務局長 椎名 宏子

編集理事 若松 真